スムリヤー・ウプヤー・ヤーマスヤー

集落部門

やらび（子ども）の笑顔に豊穣を託すふるさとづくり
（平成26年度認定）

写真提供:（株）宮古毎日新聞社

来間島では毎年新暦の9月（もしくは10月）の甲午（きのえうま）の日に「ヤーマス御願（うがん）」という伝統的な祭事を執り行なう。かつて千人が住み栄え「千人原」と呼ばれた来間島は「ヤーマス」という御願をとりやめたことから神の怒りにふれ、天から遣わされた怪物に襲われるようになった。その怪物を宮古島から来た三兄弟が退治し、島を再興して御願を盛大に行うようになったというのが由来で、数百年の歴史があるとされる。

来間の島民はみなこの三兄弟の子孫とされることから、全島民が参加する。3日間に及ぶ神女の祈願が終わった日の朝から、スムリヤー（長男家）、ウプヤー（次男家）、ヤーマスヤー（三男家）にそれぞれゆかりのある人が集まる。子孫繁栄と豊穣を願うもので、まつり初日は昨年子どもの生まれた家、成人した若者の家から寄進を行い神前に報告する。祈願主が来客の一人一人に祈願詞を歌い神酒を捧げる「サラピャース」を行う。2日目には集落の中心にある「雨乞い座のデイゴの木」までパレードを行い、踊りを奉納する。

甲午（きのえうま）の日は一年最後の日とされ、今年の豊作を感謝し来年の豊作を祈願する神との約束であるから、台風が襲来しても挙行する。地域における重要性を鑑み、市指定の有形民俗文化財に指定されている。「雨乞い座のデイゴの木」は3兄弟が1本ずつ植えたものとされ、市指定の天然記念物になっている。長男家の墓「スムリャーミャーカ」は県指定史跡となっている。「ヤーマス御願」は農業が盛んな本地域の営みと深く結びついており、島外の出身者も子や孫の誕生を報告に訪れる等、脈々と受け継がれていることから、「沖縄、ふるさと百選」集落部門として認定を受けた。

スムリャーミャーカ

雨乞い座
雨乞い座のデイゴ（2本が現存）

サラピャース（祈願）
写真提供:（株）宮古毎日新聞社

パレード（女性の踊り）
写真提供:宮古毎日新聞社

パレード（棒振り）
写真提供:宮古毎日新聞社

パレード（来間小児童のエイサー）
写真提供:宮古毎日新聞社